

V. 特記事項

1. OIST STEM Experience, Exploration, and Discovery (SEED) Program

STE/エクスペリエンス/エクスペロレーション/ディスカバリー (SEED) プログラムは、全国のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 及び理科系カリキュラムを有する高校を対象としています。参加校のニーズを把握した上で、生徒の科学技術への興味を喚起し、将来の研究に資する新たな研究能力を育成するような体験を提供することを目的としています。

同時に、英語による科学活動を実施することで、将来国際的な活躍を目指す生徒のモチベーション向上にも貢献しています。本学の留学生、研究者、職員との様々な交流を通じて、参加者は科学について学ぶだけでなく、将来のキャリアについても考える機会を得ることができます。

2. 国際大学院運営フォーラム

先進的な教育研究施設や良好な生活環境の提供に加え、国際競争力のある学生支援は、学生の成功に不可欠です。本学の専門スタッフは、豊富な海外経験で培われた様々なスキル、知識、多様な教育的・文化的背景を持っており、博士号取得への道を歩む学生を支援する上で非常に貴重な存在です。大学院では、留学生が学業に専念できるよう、必要な支援やリソースを提供することが最も重要ですが、さらにこの取り組みは、卒業後も学生にとって有益であるべきです。

本学の国際大学院運営フォーラムでは、本学の取り組みや、国際的な評価と知名度を高め、維持するために国際的な大学院が直面する重要な共通課題を克服する方法を探ります。また、本フォーラムは、学生の成功のために国際的に認知された教育機関となることを目指す日本の大学間の今後の協力のための絶好の機会を提供しています。

3. Nature Indexで本学が世界トップ大学を牽引

Nature Indexは、毎年世界の研究機関をランキングして発表していますが、最新のランキングが発表された令和元（2019）年には、本学が、この正規化指標を用いて算出した質の高い研究機関ランキングで世界9位にランクインしました。

Nature Indexは、質の高い82の自然科学分野のジャーナルに出版された研究論文への貢献を追跡するデータベースです。正規化指標の計算に当たり、デジタル・サイエンス社が提供するDimensionsデータベースの自然科学の論文数を用いています。この正規化（規模平準化）指標は、研究機関全体の研究成果に対する高品質な論文掲載数の割合を見ることが出来るものとなります。

また、令和3（2021）年、本学が国際的な科学誌Natureを出版するシュプリンガー・ネイチャー社に依頼して分析したところ、最新のデータベースを利用した正規化指標において、本学が世界の10の著名大学と比して、質の高い研究論文を生み出す割合が最も高いという結果となりました。

本分析では、平成27（2015）年から令和2（2020）年までのデータについて、本学と、無作為に抽出した10の世界の著名研究大学を比較しました。（比較対象：カリフォルニア工科大学、ハーバード大学、ジョンズ・ホプキンス大学、マサチューセッツ工科大学（MIT）、スタンフォード大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、清華大学、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学、東京大学）。その結果、最新データの令和2（2020）年においては、本学がこれら10の研究大学全てを上回りました。